

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

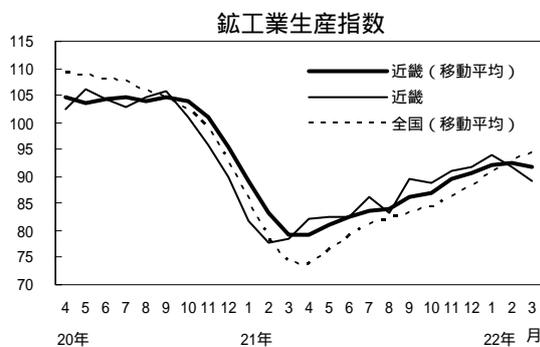
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 2 月)	今回 (平成 22 年 5 月)	
鉱工業生産	持ち直している	<u>緩やかに持ち直している</u>	
個人消費	持ち直しの動き	<u>持ち直している</u>	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが <u>緩やかになっている</u>	厳しい状況にあるものの、 <u>下げ止まりつつある</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、海外向けの半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置の価格低下の影響などから横ばいとなっている。化学は、化粧品やプラスチックなどが増加している。食料品・たばこは、肉製品や酒類等を中心におおむね横ばいとなっている。電気機械は、リチウムイオン蓄電池、太陽電池モジュールは横ばいとなっているものの、セパレート型エアコンなどが減少している。鉄鋼は、自動車や家電向けが増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

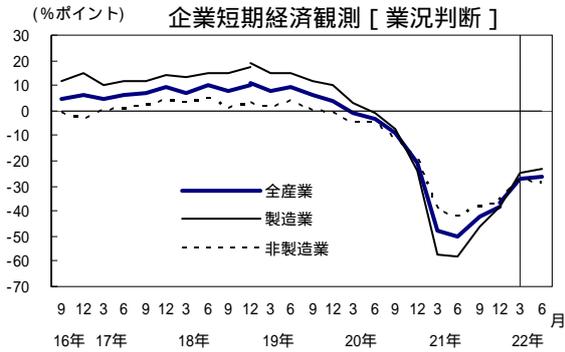
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
一般機械	17.0	8.6	0.0	1.0	2.4		
化学	14.5	1.0	3.3	4.7	1.8		
食料品・たばこ	9.1	0.3	0.3	2.4	10.7		
電気機械	8.5	3.8	2.9	1.0	3.4		
鉄鋼	7.5	11.8	7.3	6.2	0.0		
鉱工業	100.0	5.0	1.2	1.0	0.4		

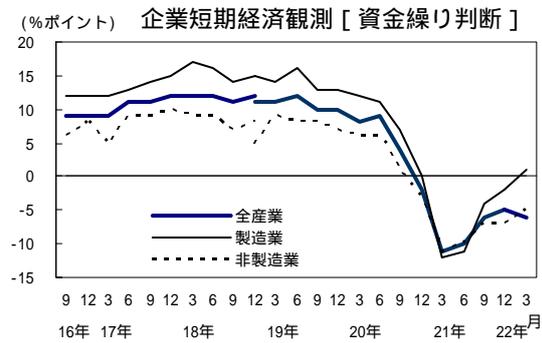
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

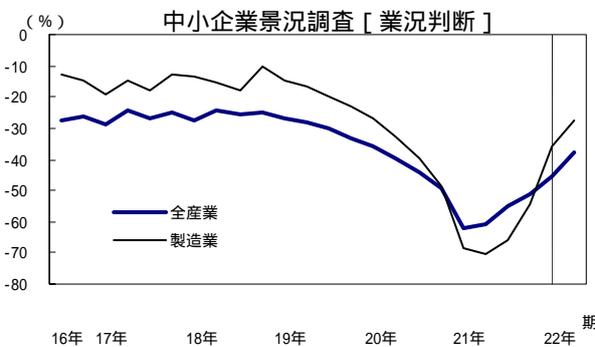
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

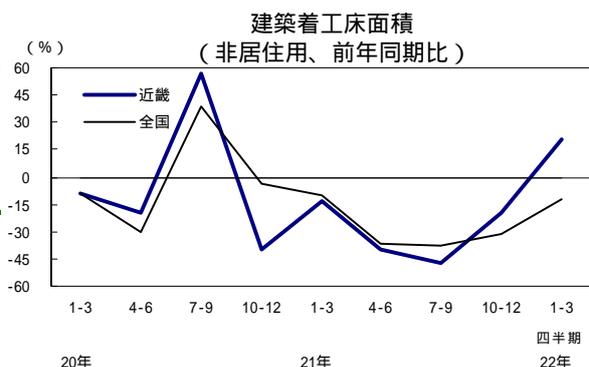
「新年度が始まり、大手企業の輸出部門では販促物が動き出したが、国内向けの広告宣伝は依然として動きが鈍く、特に住宅や製造業関連は顕著となっている。ただし、電機などの弱電業界はエコポイント制度の延長などで販促物は活発に動いている(出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	16.3(2.4)	3.4
製造業	28.7(3.1)	2.6
非製造業	4.5(1.9)	3.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、初売りの不振やクリアランスセールの前倒しの影響もあり、主力の衣料品が不調であったことから、前年比の減少幅が拡大した。2月は、下旬に天候に恵まれ、春物衣料に動きがみられたほか、化粧品が好調であったことから、前年比の減少幅が縮小した。

3月は、天候不順により春物衣料の動きが悪かったものの、一部店舗の改装オープンもあり、化粧品が好調であったほか、時計などの高級品にも動きがみられたことから、前年比の減少幅が縮小した。日本百貨店協会によると、4月の売上高は、大阪市、京都市、神戸市で、それぞれ前年同期比3.7%減、1.5%減、3.1%減となっている。

スーパーは、客単価の下落などから衣料品が低調であったものの、2月後半は天候に恵まれ、春物衣料に動きがみられたことや、エコポイント基準見直しの駆け込み需要で家電が好調であったことなどから、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「季節商品を少しでも安く買うために、時期をずらして買う客が増えており、入学式を過ぎても学習机が売れている(住関連専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

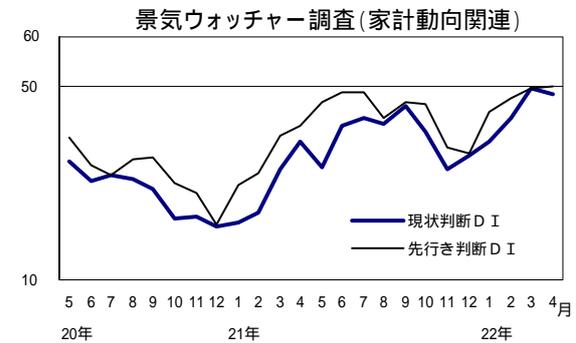
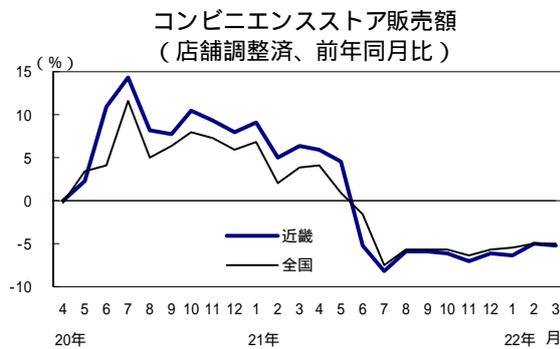
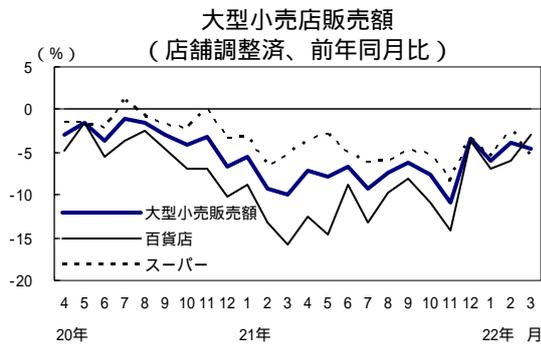
(前年同期比、%)

	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	7.2	7.7	7.1	4.8
百貨店	12.0	10.7	9.0	5.3
スーパー	3.8	5.6	5.6	4.6
乗用車	16.5	1.5	20.7	24.5
景気ウォッチャー	37.9	43.8	36.2	43.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

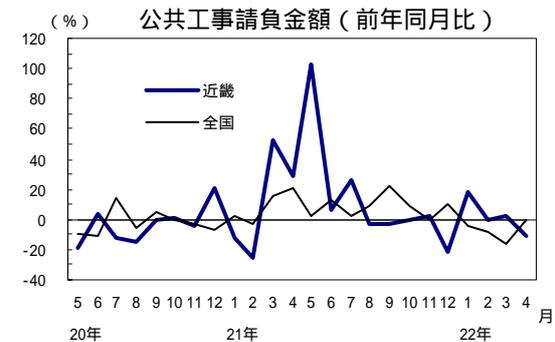
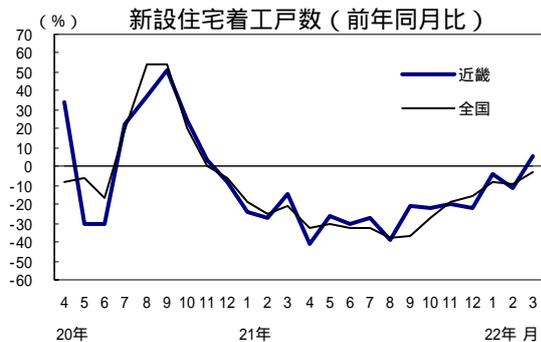
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回り、減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

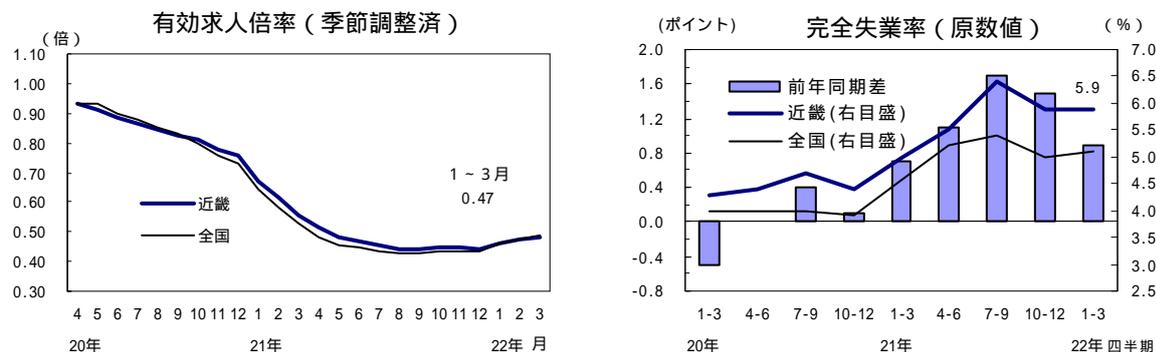


3. 雇用情勢等

(1) 厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

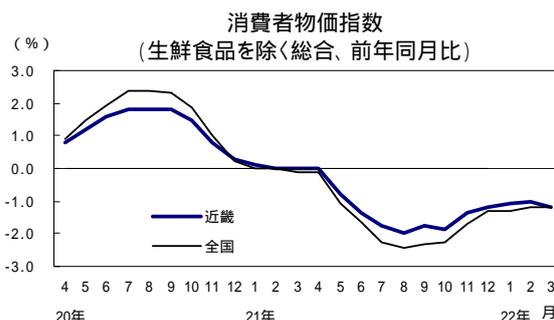
「看護師などの医療関係の求人が活発に動いているほか、運輸関係の求人も底堅いが、全体としては低調である (新聞社 [求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数 (前年比)	1,104 18.7	1,060 8.8	941 6.6	945 12.6	333 6.5
負債総額 (前年比)	2,356 21.6	1,647 33.1	4,418 37.4	2,021 49.1	582 15.1



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (4月)

・特別な広告品があったわけではないが、客に買おうとする雰囲気があり、久しぶりに販売量が伸びている。今までは気に入った商品があっても、購入を少し悩んでいたが、節約や我慢に疲れて少しぜいたくしようとする雰囲気がある (一般小売店 [時計])

<先行き> (4月)

・前年は新型インフルエンザの影響で5、6月の売上がかなり落ちたため、今年はホテル全体として例年並みに戻る。宿泊では個人客の動きが良くなっているほか、一般宴会も恒例の予約がほぼ入っているなど、やや持ち直した感が出てきている (都市型ホテル)

